

様々なウイルスの除去にも

フキーナー

除菌消臭液

塩素系不使用 500ml

消臭

予防

除菌

01

優れた除菌力

✓ 殺菌効果試験で効果を確認

フキーナー除菌消臭液 殺菌効果試験結果表

試験菌	試験液 (生理食塩水で希釈)	作用時間					
		30 秒	1 分	2 分	10 分	15 分	20 分
大腸菌	60 倍希釈	不検出	不検出	不検出	...	...	...
緑膿菌	60 倍希釈	不検出	不検出	不検出	...	...	...
黄色ブドウ球菌	60 倍希釈	不検出	不検出	不検出	...	...	...
サルモネラ菌	60 倍希釈	不検出	不検出	不検出	...	...	...
レジオネラ菌	60 倍希釈	...	...	...	不検出	不検出	不検出
セラウス菌	60 倍希釈	...	...	...	検出	検出	不検出

■試験検査機関：株式会社食環境衛生研究所（※、全ての菌やウイルスを除菌するものではありません。）

※、成分：7416A*ジアルアンモニウムクロリド、2-フェノキシエタノール、IPA、蒸留水（無色・無臭・水溶性・引火性なし・雑品）

02

60倍濃縮タイプで経済的

✓ 一本で 30ℓ 相当の除菌液



500ml ボトル 1 本での目安作成数 (60 倍希釈)

作成量	フキーナー 除菌消臭液	水道水	作成回数
300ml	5ml	295ml	100回分
500ml	8ml	492ml	63回分
1,000ml	17ml	983ml	29回分
2,000ml	33ml	1,967ml	15回分
3,000ml	50ml	2,950ml	10回分

※、ボトル蓋の満杯容量は 20ml です。

●廃水については原液・希釈共に問題ありません。(本品はヒ素・鉛・カドミウム・総水銀・総クロム・重金属は検出しません)

●保管場所は直射日光を避け、フタをして密閉し冷暗所に保管してください。火気高温場所での保管はおやめください。

●人体への刺激、毒性試験：製造所受検／(財)日本食品分析センター（ウサギを用いた皮膚一次刺激性試験・マウスを用いた急性経口毒性試験）

●本カタログ掲載商品は 2020.06 現在のものです。改良の為、予告なく仕様・デザイン（生産中止）をする場合もございますので、予めご了承下さい。

03

安心・安全の国産

✓ 信頼の日本製



品 名	容 量	ケース入数	備 考
フキーナー除菌消臭液	500 ml	10 本入	60 倍希釈で使用



商品詳細・用途
希釈方法はこちら

販売元 三和紙工株式会社
tel: 048-998-8511

sanwapap

検索

sanwapap

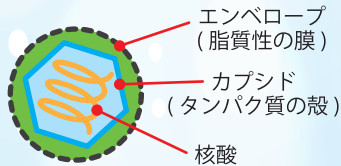
資材のウイルスに対する不活化効果試験結果

検査機関
株式会社 食環境衛生研究所

試験資材：フキーナー除菌消臭液 [試験資材は精製水で 60 倍に希釈してから試験に供した。]

《 01 》

インフルエンザウイルス / エンベロープ保有ウイルス



界面活性剤やアルコールが膜を破壊してウイルスにダメージを与える

■代表的なエンベロープウイルス

新型コロナウイルス / インフルエンザウイルス / ヘルペスウイルス / 風疹ウイルス
B 型・C 型肝炎ウイルス / エイズウイルス

インフルエンザウイルスに対する試験結果を表 1 及び図 1 に示した。

対照区では試験開始後から、試験開始後 30 分までの間にウイルス量の変化は見られなかった。 $(10^{7.1} \text{TCID}_{50}/\text{mL})$

試験区では開始後 5 分で $10^{3.5} \text{TCID}_{50}/\text{mL}$ (99.9% 減少)、開始後 30 分で $<10^{2.5} \text{TCID}_{50}/\text{mL}$ (検出限界未満：99.99 以上減少) となった。

■供試微生物

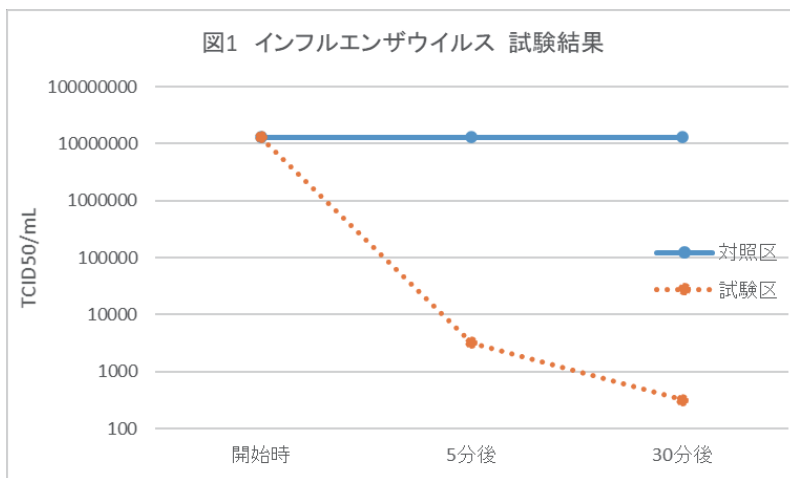
インフルエンザウイルス：swine influenza virus H1N1 IOWA 株

培養細胞：MDCK 細胞 (イヌ腎臓由来株化細胞)

※エンベロープ保有ウイルス

表 1 インフルエンザウイルス試験結果(TCID₅₀/mL)

区	試験開始時	開始後 5 分	開始後 30 分
対照区		-	$10^{7.1}$ (13000000)
試験区	$10^{7.1}$	$10^{3.5}$ (3200)	$<10^{2.5}$ (<320)



《 02 》

ネコカリシウイルス / エンベロープ非保有ウイルス



界面活性剤やアルコールに強く、アルコール等では対処が困難

■代表的なエンベロープ非保有ウイルス

ノロウイルス / ロタウイルス / ポリノウイルス / アデノウイルス

ヒトノロウイルスに対する消毒薬の有効性評価は、このネコカリシウイルスに対する不活化効果で判断されています。

EPA (Environmental Protection Agency : 米国環境保護庁)

ネコカリシウイルスに対する試験結果を表 2 及び図 2 に示した。

対照区では試験開始後から、試験開始後 30 分までの間にウイルス量の変化は見られなかった。 $(10^{5.5} \text{TCID}_{50}/\text{mL})$

試験区では開始後 5 分で $10^{3.3} \text{TCID}_{50}/\text{mL}$ (99.4% 減少)、開始後 30 分で $10^{2.7} \text{TCID}_{50}/\text{mL}$ (99.8% 減少) となった。

■供試微生物

ネコカリシウイルス：feline calicivirus F9 株

培養細胞：CRFK 細胞 (ネコ腎臓由来株化細胞)

※エンベロープ非保有ウイルス

表 2 ネコカリシウイルス試験結果(TCID₅₀/mL)

区	試験開始時	開始後 5 分	開始後 30 分
対照区		-	$10^{5.5}$ (320000)
試験区	$10^{5.5}$	$10^{3.3}$ (2000)	$10^{2.7}$ (500)

